

自分自身、今回大学の集中講義という形で与論島に行くめったにない機会をもらうことができました。自由時間の中で島内を巡ったり、島の方たちの色々な講義を聞いたりしていく中でどういうことをしていけば与論島が活性化していくのかということそれぞれの観点からかんがえていきました。

まずは観光面です。与論島にとって最も大事な産業の一つだと思います。ピーク時には年間約15万人の方が訪れていましたが、増減を経て、現在は年間約6万人の方が訪れています。観光の一つの目玉はやはり海だと思います。自分も今回実際に海をこの目で見てあまりの美しさに驚嘆しました。2月ではありましたが、友達と泳がずにはいられないと泳いでしまうほどでした。青いというよりエメラルドブルーで透き通ったきれいな海でした。これは実際に目で見ないと分からない美しさだと思います。逆に考えると、一度与論島にきて、海を見れば絶対にもう一回訪れたいと思うのではないかと思います。ですから一度来てもらうためにもっと与論島というものが身近にあるということを知ってもらうことが大事だと思います。与論島を沖縄県の島だと勘違いする人もいるのではないのでしょうか。鹿児島県にもこんな美しい海があるということをもっと知ってもらうことができればと思います。例えばこのようなツアーはどうか。初めて与論島に行く人を募集して、またもう一度行きたいという方には二回目の費用を割引する。そうしていく中で、観光客が増えていくと思います。観光客が増えると、島内の施設の充実度が重要になってくるでしょう。自分は観光マップを見て、また島内を歩いて施設は充実していると感じました。居酒屋はもちろん、手軽に定食やラーメンを食べるところもありましたし、若い人でも立ち寄れるオシャレなイタリアンレストランもありました。これだけの施設があれば大丈夫だと思いましたが、自分が行ったのは観光客も減ってくる2月だったので、夏場はどのような感じか気になりました。また、観光面で大事なことは他の島あるいは沖縄県などとの差別化を図ることだと思います。与論島にしかない特色のあるものを全面にだし、オンリーワンを作り出すことで、与論島の魅力がとでも増すことでしょう。また、年代別にターゲットを絞った誘致も効果的ではないかと思います。

もう一つ与論島にとって大事な産業の一つに農業があります。与論島の農業の中心はサトウキビです。それに加え、肉用牛、輸送野菜、花きなどを組み合わせた複合経営となっています。また、近年はマンゴーなども栽培しています。農業の中心であるサトウキビの栽培ですが、色々な問題もあるようです。干ばつや台風などの気象災害の影響を受けやすく、生産量が大きく変動するようです。なので、既に行われていますが、島の気候を生かした果物の栽培にさらに力を入れていくということが大事になってくると思います。また、ただ栽培するのではなく栽培した後の加工食品で何か目玉になるようなものを作るのはいかがでしょうか。例えば、サトウキビでは、黒糖だけでなく、工夫をこらしたお菓子などを作ることができるのではないかと思います。何か一つさらに特産品を作ることで観光客の方が買ってってくれれば経済的に与論島が活性化していくのではないのでしょうか。他にも解決していかないといけない課題があります。それは農業での後継者不足です。人口は

今、減少していっています。そして、日本全体が高齢化社会になっています。与論島ではなおさらです。若い世代の人が与論島で農業をして暮らしていきたいとなるようにしていくことも必要だと思います。そのために小中高生のために農業の素晴らしさなどを伝えるのも効果的だと思いますし、島外から移住してきて農業がしたいという方がいるかもしれません。そういった方が移住してきやすいような環境づくりも大切になってくるのではと思います。

このように与論島の産業の中心である、観光業と農業から与論島の活性化について考えていきましたが、まだ行ったことのない方にはぜひとも与論島に行っていただきたいと思いました。そして、この素晴らしい自然に囲まれた与論島がこれからもっと有名になって日本中の人たちに知ってもらいたいです。